



# 南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

## 今年の教区目標

求めよう、神のちむがなさを！  
守ろう、沖縄における人権を！  
探そう、真の平和への道を！

〒902-0067 那覇市安里3-7-2  
カトリック那覇教区本部  
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474  
発行人 W.F.バートン司教 1部40円  
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2019年2月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第723号 (2月号)

### 求めよう、神のちむがなさを！

兄弟姉妹の皆さん、

聖書には「求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。戸をたたきなさい。そうすれば開けてもらえます」というみことばがあります(マタイ七・七)。聖マタイがこうしたみことばを伝えたのは信仰を強めるためです。キリスト者は神の子として神様に心からの願いを求めることができると伝えたかったのです。「求めよう、神のちむがなさを！守ろう、沖縄における人権を！探そう真の平和への道を！」という今年の那覇教区目標はこのみことばに基づいているのです。

今回は、最初の部分「求めよう、神のちむがなさを！」について皆さんと分かち合いたいと思います。その他の部分については、今後の号で取り上げます。

聖ヨハネは神のちむがなさについてよく書き記しました。「御父がどれほどわたしを愛してくださるか、考えなさい。それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほどです。」そして、「わたしたちは、いま既に神の子ですが、自分がどのようなになるかは、まだ示されていません。しかし、御子が現れるとき、御子に似たものとなる」(ヨ

ハネの手紙 三・1・2)と。キリストに似たものとなれるということはキリスト者の希望です。

そのイエス様は御父との繋がりを何よりも大切にしました。祈りによって、御父の御心はどのようなのかを考え、悟りを求めるようにしました。そうして「わたしが天から降って来たのは、自分の意志を行うためではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行うためである」(ヨハネ六・38)との確信に至りました。ですから私たちもイエスの弟子として、またキリストに似たものとして、御父の「御心を行う」使命があるのです。

それゆえ私たちは、毎日主の祈りの中で「御心が天で行われるように、地でも行われますように」(マタイ六・10)と唱えるのです。御父の「御心を行う」ために私たちがキリスト者はキリストの心を以って生活のすべてを成し遂げます。

福音に描かれているキリストの価値観、思想、生き様などを自分のものにし、生活のすべてをキリストの心に合わせます。そうすれば、わたしたちは徐々に父の御心を行う者となり、キリストの平和を得、その永遠の命に与るのです。それにはまず、神の注がれるちむがなさを受容し、味わう必要があ

ります。それを充分頂いて、満足できると心から感謝と喜びが溢れ出て、自分の思い、言葉、行動、いわば生活のすべてをとおして、神のちむがなさに答えることができるようになるのだと思います。

皆さん、沖縄に住む私たちはたくさん課題に直面しています。それぞれの課題を取り組む方法はさまざまですが、キリスト者として聖書の視点から各課題を取り組むためには、福音の照らしを求めなければなりません。そして個人のレベルでも、小教区や教区のレベルでも、社会のレベルでも、神に象られた人間としてキリストの心を以って各課題を取り組みたいと思います。聖書に書いてある通り、神様のちむがなさを求めるなら、「神にできないことは何一つない」(ルカ一・37)からです。

この教区目標を実行に移す手段  
(二頁へつづく)

## 教区の日 記念ミサ・祝賀会

●日時 2019年2月11日(月) 午後2時  
●場所 カトリック安里教会

教区の日にあたり、節目の年を迎える(迎えた)方々のために感謝ミサを捧げ、祝賀会を行います。昨年司教叙階式のためお祝いできなかった方々も合わせてお祝いいたします。大きな喜びのうちに、祈り、祝福し、教区誕生の日を祝いましょう。

カトリック那覇教区長 ウェイン・F・バートン司教

の一つとして手始めに、来る二月十日に第一回那覇教区信徒評議会を開催します。各小教区の現状、課題、希望などについての信徒の声に耳を傾け、その声の中に神のちむがなさを求めたいと思っております。信徒の声にあらわされる聖霊の招きに耳を傾け、教区運営に資するつもりです。

そして、二月十一日には教区の日を祝います。那覇教区が今日あるのはたくさんの方々の貢献のおかげです。その日には、私以前の責任者であるレイ司教様、石神司教様、押川司教様をはじめ、宣教司祭の皆さん、邦人司祭の皆さん、助祭団、修道者の皆さん、そして信徒の皆さんを通してすでにあらわされた神のちむがなさに感謝と賛美のミサを捧げたいと思います。

また、特に昨年は司教叙階式のために祝うことができなかった為、昨年中と今年中に結婚・叙階・修道誓願五十周年(金祝・金婚祝)などを迎えた聖職者や信徒の皆さんの上に神様のさらなる祝福を願いたいと思います。これまでの頂いた数々の恵みを神様に感謝しながら、新春を迎えた那覇教区(沖縄県)内のすべての方々の上に、神様のちむがなさを祈り求めましょう。

那覇教区長

ウエイン・F・バーント司教

## “Let us seek the Compassionate Love of God”

Dear Brothers and Sisters of Naha Diocese!

In the Gospel of Matthew there are these words:

“Ask, and it will be given to you; seek, and you will find; knock, and it will be opened to you.” (Matt. 7:7). St. Mathew conveyed these words to the faithful in order to strengthen their faith. He was telling them that as children of God it is possible for them to make requests directly to God. The aim for Naha Diocese this year, “Let us seek the compassionate love of God, protect human rights in Okinawa and search for a true path to peace!” is based on this scriptural passage. In this article I would like to reflect with you on the first part of the aim, “Let us seek the compassionate love of God”. In subsequent articles I will reflect with you on the other parts of the aim for this year.

St. John writes in his letters and his gospel often about the compassionate love of God.

“See how great a love the Father has bestowed on us, that we would be called children of God.” He goes on to say, “Beloved, now we are children of God, and it has not appeared yet what we will be. We know that when He appears, we will be like Him.” (1 Jn 3:1-2). It is the great hope of all Christians to become like Christ. Jesus placed prime importance on his relationship with the Father. Through prayer he tried to discern the Will of the Father, and asked for enlightenment concerning His Will. Jesus said, “For I have come down from heaven, not to do my own will, but the Will of Him who sent me.” (Jn. 6:38). As a disciple of Jesus, as someone who wants to be like Jesus, we also have the mission to do “His Will”. For this reason, we pray as part of the Lord’s Prayer every day, “your kingdom come, your will be done, on earth as in heaven.” (Lk 6:10b)

In order to do “His Will,” we as Christians, should carry out all the activities of our lives having within ourselves the heart of Jesus. In the Gospels, Christ’s values, thinking and way of living are very clearly depicted. We should make all these our own, they should become part of our heart and soul, so that all our lives are in accord with the heart of Jesus. In this way, we will enjoy happiness, have peace of heart and earn our place in heaven. If we are certain that we are loved by God, then we can become able to respond to

this love, in word, thought and deed; in other words, we can respond in love to God with our whole lives lived in accord with the heart of Jesus. God’s love wraps up everything within itself; even our weaknesses are enveloped by his love. This gives us the freedom to change. This change does not stop on the level of the individual, but grows to include all our human relationships, even society can be gradually changed by his love. This love encompasses everyone!

All of us living in Okinawa are confronted with a host of issues. There are various ways that people can chose to respond to these issues. If we want to deal with these issues based on the Word of God, we must seek out enlightenment from the Gospels. This is true for our personal lives, our interactions in the parishes, our dealings with the diocese and in discussing society issues as well. As a person created in the image of God, we want to deal with all our issues in accord with the Word of God. As is written in the scriptures, if we seek the compassionate love of God, then “there is nothing that will be impossible for God” to do. (Lk 1:37).

On February 10, we will have the “First Meeting of the Naha Diocese Lay Council”. I want to hear firsthand from you about the circumstances, issues and hopes etc. of the different parishes. By listening carefully, I hope to use all that I hear from you to help run the diocese.

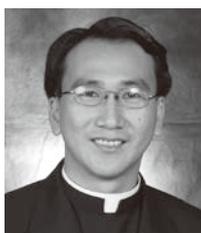
On February 11, we will celebrate “Diocesan Day.” It is the selfless dedication of so many people that has made Naha Diocese what it is today. I would like on that day to offer a Mass of Thanksgiving for my predecessors, Bishop Ley, Bishop Ishigami and Bishop Oshikawa, as well as for the missionary priests, the local diocesan priests, the deacons, the religious and for all the laity of the diocese. On that day we would also like to ask God’s blessing upon the members of religious communities, priests, deacons and married couples who are celebrating their golden 50th anniversaries. While thanking God for all the blessings that we have received over the years, let us seek the compassionate love of God upon Naha Diocese, as we continue our journey together during the New Year.

By: Bp. Wayne F Berndt O.F.M.Cap.



# カトリック家庭に 生まれる子ども

ヨゼフ・ブイ神父  
名護教会 主任司祭



人たちの考えは「子供たちが大きくなつてから、自分の意志で判断させる」というものです。たしかに一理あるように思いますが、でもこのことは子供たちに信仰を伝えるという事です。また、親がキリスト教を良いと思っていなかったり、自信がないということではないかと思いま

す。信仰は、理屈や理性の問題ではありません。心の問題です。小さい頃から何らかの宗教心に触れていなければ、信仰を保つことは困難なのではないかと思ひます。わたしの父は仏教の家族に生まれましたが、母と結婚する前に父は洗礼を受けました。そして、熱心で強い信仰をもつ母でしたので、父の親や兄弟姉妹も後に洗礼の恵みを受けたことができました。

わたしの小さい頃のことを思うと、毎朝早く四時にミサに雨が降つても行きました。そこで、侍者をしたり、遊んだり教会が第二の家でもいえる雰囲気がありました。このように幼い頃から教会と共に歩んで、また、いつでも教会のことを中心に考えていました。毎晩夕食の後、家庭祭壇の前で、みんなでロザリオを祈ったり、次の日のミサ典礼の福音を読んだり、簡単に父から福音の説明も聞きま

した。わたしの母は、マリア様への信心が深く、わたしたちが病気になる時は、聖水を飲ませてもらったりもしました。子供の頃に培われた信仰心は、いくつになつても心の片隅に引っかかっているものです。そのためにも、小さい頃からの信仰教育、宗教的なしつけや習慣はとても大切です。でも、「わたしはカトリックのことや要理は何も知らないのだから教えることはできない」と言うこともよく聞かれます。でもそれは、知識を教えるということでは、信仰教育というものは、知識を教えることではなく、信仰を伝えることでは、自分が信じているものを言葉で行いで子供たちに伝えていくことです。親の後ろ姿を見て、子供たちの心の中に信仰心が育まれていくのです。信仰教育は、教会に

家庭は、とても大切なものであり、家庭が成り立たなければ、社会生活も信仰生活も成り立たないともいえると思います。

子供は、家庭の中で育ちます。子供は生まれたあと、特に母親の愛情を豊かに受けながら、親御さんたちの話す言葉や行いを見ながら育ちます。親は、子供に、いろんなしつけや教育を行います。これは決して押しつけではなく、親が良いと思ったことを子供たちに伝えるものです。

これと同じように、信仰も子供たちに伝えていきます。最近では、幼児洗礼の数が減ってきたといわれますが、これはある意味問題だと思ひます。幼児洗礼をさせない

自分たちが良いと思っていなければ、子供たちに伝えることはできません。このことは、他のしつけにおいても同じことがいえます。しつけは、親の価値観に基づいて子供たちをしつけていくものです。また、幼稚園や学校に入学させることや着る物など、全ては親が考えて良いと思つたものを子供たちに伝えていきます。

これは、決して子供たちの自主性を疎んじるものではないはずで

す。信仰は、理屈や理性の問題ではありません。心の問題です。小さい頃から何らかの宗教心に触れていなければ、信仰を保つことは困難なのではないかと思ひます。わたしの父は仏教の家族に生まれましたが、母と結婚する前に父は洗礼を受けました。そして、熱心で強い信仰をもつ母でしたので、父の親や兄弟姉妹も後に洗礼の恵みを受けたことができました。

わたしの小さい頃のことを思うと、毎朝早く四時にミサに雨が降つても行きました。そこで、侍者をしたり、遊んだり教会が第二の家でもいえる雰囲気がありました。このように幼い頃から教会と共に歩んで、また、いつでも教会のことを中心に考えていました。毎晩夕食の後、家庭祭壇の前で、みんなでロザリオを祈ったり、次の日のミサ典礼の福音を読んだり、簡単に父から福音の説明も聞きま

点満点だといえるのです。

明日の教会を背負っていく子供たちの信仰が成長するために、お母さん・お父さん・皆が自分の信仰を振り返り、信仰を深める協力をしたいかなければなりません。そして、私たちが自分の信仰を見つめ、神様にすべてを委ねて生きていくように歩んでいくことにしましょう。

「あなたの信仰があなたを救った」(マタイ九・22)。

このみ言葉を今年の正月、母(九十七歳)を通して体験しました。私たち家族は、三年前から母が入所している長崎の高齢者福祉施設(コンヴェンツアル会が運営)でクリスマスと正月を過ごしています。

十二月初めに母の心臓の持病が悪化したとの連絡を受け、急ぎ長崎へ駆けつけました。母は ICU に入院していました。母が、私たちが到着した時には一命をとり止め、話しができる状態にまで回復していました。

いつもお世話になっていた母をよくご存知の Y 神父様が、「お母さんは祈りのなかで神様と会話されて、もう少しの間、子ども達と過ごす時間をくださいと願い、神様がそれに応えてくださったのでしよう」と私たちに話してくれました。

母はどんな時にも口ザリオを離さず、いつも祈っている信仰の深い人です。高齢で、持病を抱えている母ですが、気丈で、少し短気なところもありますが、今でも私たちを心配し、信仰について語ってくれる母です。入所者の方々からも親しまれているようです。

今年も正月を家族一緒に過ごすために長崎へ出かけました。長崎ではいつも修道院にお世話になっています。修道院での生活は、早朝六時のミサに与り、神父様、修道士さん達の食事作りを手伝い、午後三時から毎日口ザリオの祈りを、カトリック祈禱書を用いて祈ります。

祈りには、施設に入所している高齢者二十五名ほどが参加

よって開かれました。聖者コルベ神父は殉教者です。聖者コルベ神父の命が私たちの心に生かされますようにと祈っています。

また、重度の身体障害者施設を神父様と訪問してミサに与ったり、時には修道院の神父様や修道士さんたちと分ち合いをしたり、楽しく有意義なひと時を過ごすこともあります。

私たちはスケジュールが忙しい中であっても、必ず聖母の騎士のルルドのマリア様を訪問します。ルルドの聖母の騎士修道院は聖者コルベ神父に



開南教会 吉田 晃

マリア様がおられる所まで行くには少しの忍耐と努力が必要です。階段状の道を昇りながら口ザリオを一連ごとに黙想し、五連を唱え終わる頃、マリア様の所に着きます。そこは美しい自然に囲まれており、マ

リア様はゴツゴツした岩の上に立つておられます。その岩の側には真っ赤な南天の実や、椿の花、野バラの赤い花が冬景色に映えて咲き誇り、そのけなげな姿は私たちに微笑みかけているように見えます。水もコンコンと豊富に湧き出ていて、まさに命の源そのものです。その命で生きる力を頂き、私たちを命の輝きに目覚めさせてくれますから、何度も訪ねるので

また、私も感銘を受けます。あと、いつも感謝を受けます。設を神父様と訪問してミサに与ったり、時には修道院の神父様や修道士さんたちと分ち合いをしたり、楽しく有意義なひと時を過ごすこともあります。

私たちがスケジュールが忙しい中であっても、必ず聖母の騎士のルルドのマリア様を訪問します。ルルドの聖母の騎士修道院は聖者コルベ神父に

今回の長崎訪問は、私にとつて信仰について考えさせる旅でもありました。Y 神父様から私たちに次のテーマが与えられ、黙想するようにと指導がありました。「私に神様は何を期

待っておられるのか」、「そのために労力を注いでいるのは何のためか」。このテーマについて、私は今回の旅の中で答えを導くことができませんでした。問いかけられていることが解

からなくても、いつも心に問いかけて生きるのが祈りであると思います。いつも祈りによって、答えが出なくても忍耐と希望を持ち続け、神様を信頼して生きたいと思えます。

また、修道士さんが分かち合

いの中で語ってくれたことも、私を励ましてくれました。神学校を終わろうとする時に、司祭の道に進むべきか、修道士の道をとるか悩んだそうです。その修道士さんは人前で説教するのが苦手だったので、神様に進むべき道を何度も問いかけたそうです。

るといつも神様に話しかけて、神様に向って祈ってきたと話してくれました。

この分かち合いの中で私は感じました。神様に気楽に親しみをもって話しかけ、自分の心を素直に開くことを大切に生きていたいと思いました。祈りは命の糧である。良い時も、最悪の時も、神様からいただくお恵みのだから、感謝して、希望のうちに日々を過ごすことができませんように、いつも神様の守りと助けを願いながら。

また、私も感銘を受けます。あと、いつも感謝を受けます。設を神父様と訪問してミサに与ったり、時には修道院の神父様や修道士さんたちと分ち合いをしたり、楽しく有意義なひと時を過ごすこともあります。

- 洗礼おめでとうございます**
- 開南教会
- 二〇一八年十二月二十四日 タルシシウス 大城 壮
  - 二〇一八年十二月二十五日 ルカ 與那嶺孝正
- 名護教会
- 二〇一八年十二月二十四日 コルカタのテレサ
- 安里教会
- 二〇一九年一月十三日 ノトブルガ 新里天望
- 小椋教会
- 二〇一九年一月十九日 ルルドの聖母
  - ジェニングス・スミ

## 2019年1月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時: 2019年1月4日(火) 10:00~12:30 開催場所: 教区センターホール(安里教会)

### 1. 報告及び連絡事項

- ・前回(12月会議)の議事録に沿って新田が報告と確認。
- ・司会のクレーバー神父より司教、司祭、の休暇、会議、研修会等の不在予定を報告。
- ・マーシーさんから、「2019年キリスト教一致祈祷週間」について、パンフレットやポスターを各小教区に配布して、信徒たちへの啓蒙と理解に役立てるよう要請があった。
- ・3月11日が大城神父の命日であるが、2019年は3月17日(日)に日移して、開南教会で午後2時から3回忌の追悼ミサが捧げられることが報告された。
- ・教区事務局長より、特別献金送金記録を確認の上、特別献金は教区で取り纏めて送金されるものなので、未納分を確認のうえ教区事務局宛送金されるよう要請があった。
- ・同じく事務局長より、スピリチュアルレポートを毎年提出していただいているが、このレポート「教会教勢調査報告書」は1月が締め切りとなるので、様式に沿って記入し、事務局宛送付していただくよう、記入に際しての注意事項等、細かい説明とともに要請があった。小教区に属する修道会や幼稚園、保育園等の記入用紙もあるので、施設の責任者に記入していただいて、主任司祭が回収し確実に事務局宛提出、もしくは送付されるよう要請された。

### 2. 審議事項

- ・マーシーさんより2019年度の教区予定表を作成する為、司教訪問の日程、表の作成の為の希望日の聞き取りが行われた。後日、一覧表にして司祭会議で配られる。
- ・カテキスタ及び終身助祭養成プログラムについて、担当の新垣助祭より計画案が提示され、司祭たちにも養成担当者として加わっていただく為、どの項目について講師を希望するか等の記入用紙が配られ、5月までに記入提出されるよう要請があった。記入を元に顧問の押川司教と相談調整をして養成講座をスタートできるよう準備していきたい旨報告された。
- ・古川神父より、2月11日に行われる「教区の日」に関連して、カトリック小学校に入学の前にエイサーの演舞をお願いすることや、記念日に当る司祭修道者の方々と金婚式を迎える信徒のご夫婦、今年の干支に当る方々への祝福とプレゼントの準備等、細かい打ち合わせが行われた。特に金婚式等については昨年の該当者も含めて祝うこととし、1月21日(月)までに主任司祭の責任において教区事務所へ報告するよう要請された。
- ・ウェイン司教より、第1回信徒評議会開催に向けての提案が行われた。信徒の声に耳を傾け、教区運営に資するために、安里教区センターにおいて2月10日(日)の午後3時から5時の予定で開催する。“聴かせてください、小教区の声を!”というテーマのもと、各小教区から代表者1名に参加いただいて、小教区の現状と課題、希望などについて信徒の声を聴く場としたい旨説明があった。
- ・各小教区の活動報告。今回は石垣教会と名護教会。
  - ・石垣教会  
サニー神父が準備した資料をもとに、パワーポイントを使いながら石垣教会の活動報告を行った。創立から65年目を迎えること、今日までに940名余の受洗者を記録していること等が報告された。現在の在籍は125名であるが、信徒を5班に分けて、評議員運営により教会の部会活動に参加していること等が報告された。
  - ・名護教会  
ブイ神父から報告。名護教会が南は恩納村から北は国頭村まで、東は東村から西は本部町や伊江村まで、広範囲な司牧地域に信徒を有すること、巡回教会として伊江島と愛楽園教会を有することが報告された。名簿上は信徒数も350名余を数えるが、主日のミサに参加する人数は5、60人前後と少なく、宣教活動への取り組みが課題としてあること等が報告された。
- ・次回3月の活動報告は宮古島平良教会とコザ教会が行う。
- ・人事異動についてウェイン司教から以下の要望があった。
  - ・復活祭後の翌日曜日には新任地へ移動してミサが捧げられるよう準備して欲しい。
  - ・移動先の発表は「灰の水曜日」の行えるよう準備する。
  - ・発表があるまでは決定ではないので、司教から調整の為の意向聴取があっても、先走って他言することのないように注意してほしい。
- ・その他
- ・稲国神父より信徒評議会に送る人選についての質問があり、どうしても信徒の参加が不可能であれば、教会担当のシスターに参加いただくことも可能であることが回答された。
- ・次回の拡大司祭・助祭会議は3月5日(火) 10:00~12:00教区センターにて行われる(2月の拡大司祭・助祭会議はありません)。
- ・3月4日(月) 10:00~12:00 教区事務所にて教区顧問会議が行われる。

2019年1月14日

記録:新田 選

承認:ウェイン・フランシス・パート司教



# 那覇教区平和委員会



平和委員会の 4 年目の節目の昨年 10 月、早稲田大学名誉教授勝方＝稲福恵子氏に講演をお願いした。講演のタイトルは「沖縄における『同化』と『異化』と『アイデンティティ』の問題」。

「イデオロギーよりもアイデンティティ」。これは先に亡くなった翁長雄志氏が那覇市長を辞職、県知事選に立候補した時のスローガンである。この言葉は「保守・革新を超えて『オール沖縄』で戦おう」という意味だと思われる。アイデンティティという言葉はもともと発達心理学のエリック・エリクソンによる造語である。彼はドイツ人の父親とユダヤ人の母親の混血だった。通常アイデンティティは自己同一性と訳されているが、ピッタリ当てはまる日本語がなくて、いまだにカタカナ語が使用されている分りにくい概念である。それで講演のテーマとして彼女をお願いしたのがアイデンティティについてであった。

今回の講演のキー・ワードは「マージナル・マン」。マージナル・マンは社会学者のロバート・パークの造語で「異文化への移行や人種の混血によって二つの社会に引き裂かれ、そのどちらにも完全に同化できない人たちのことで、周辺人や境界人」と訳されている。マージナル・マンの典型がディアスポラ（バビロン捕囚後のユダヤ人の離散、離散ユダヤ人）である。勝方氏は沖縄の人々をマージナル・マンとして話を進めた。

アイデンティティ・クライシスという言葉がある。自己認識の危機と訳され、青年の不安定期に、「自分は誰なのか？」という自分探しの迷路に落ち込むことであり、発達心理学の概念である。これはその社会の政治的、経済的または文化的な中枢にいる人でも起こりうる問題である。しかし民族や国民の集団が歴史的転換期に自己認識の混迷に陥るとするのはマージナル・マン（境界人）にしか起こりえないと勝方氏はいうのである。

沖縄にとって明治維新からの 150 年は差別と屈辱の歴史であった。明治政府によって、それまで 500 年続いた琉球王国が強行的に近代日本国に組み込まれる。いわゆる琉球処分

ある。また先の大戦では本土決戦の時間稼ぎに沖縄は地上戦を余儀なくされ「捨て石」となった。敗戦後、連合国の占領下にあった日本はサンフランシスコ講和条約の発効で独立を果たしたが、沖縄は日本から切り離され、沖縄が日本復帰するまで米施政権下にあった。その 27 年間、本土から移駐した海兵隊の基地拡充のために、銃剣とブルドーザーによって土地が奪われた。日本国憲法が適用されず、人権が蹂躪されたのである。そして現在、民意を無視して辺野古新基地の建設が強行されている。

その一方で私たちの先達たち、すなわち伊波普猷の日琉同祖論をはじめ、名だたる人々が同化を試みたが失敗した。そして同化と異化の試みが続いた。戦後の祖国復帰運動も同化の一種である。かつて「保守のドン」と呼ばれ、1990 年まで県知事を務めた西銘順治氏（故人）は「沖縄の心は？」と問われ、「ヤマトンチュ（大和人）になりたくて、なり切れない心だろう」と答えた。

翁長知事は同じ質問に「私たちが本土の側に近づいても、寄せ付けられないのではないかと感じるころがあった」と答えている。

マージナル・マンは自己の内にある文化的、社会的境界性を生かして、生まれ育った社会の自明の理とされている世界観に対して、ある種の距離を置くことが可能である。すなわち異なる視点で眺める目を持ち、相対的に物事を複眼で見る習性があるといわれる。沖縄から日本がよく見えるというのはそのことかもしれない。

講演の最後の質疑応答の際に、ラサール神父の言ったことが印象的だった。彼は「比較するな」という言葉を繰り返した。最初、突拍子もないことをいうと思ったが、彼の真意は「比較からは何も生まれない。ウチナンチュとしての誇りを持ちなさい」という意味だと理解して彼の沖縄への思いに感じ入った。

アイデンティティとは自らの出自に誇りを持つことから始まるのかもしれない。

（平和委員会 稲福捷夫）

## 教区 NEWS 教会

### 県民クリスマス

十二月九日、第三十一回県民クリスマスがカトリック与那原教会を会場に開催され、キリスト教各派や、クリスマスチャンでない方々二百名ほどが参加しました。

ウエイン司教がメッセージを担当し、カンタ・カトリカ（教区聖歌隊）やセラの会（超教派合唱団）そして児童養護施設愛隣園の子どもたちの合唱等が披露され、参加者全員で歌い、祈り、クリスマス



ている二か所の施設が紹介され、支援の寄付がされました。

各教派から派遣された委員で構成される実行委員会では、クリスマスを祝うことが困難な人々にも思いを寄せ、共に喜びを分かち合うために活動していききたいものとして支援を呼び掛けています。

（実行委員・山田圭吾）

### チャリティーコンサート

主イエスキリストの御降誕直前の十二月二十三日、日曜日、教会学校の子どもたちと青年によるチャリティーコンサートをミサ後、教会聖堂で行いました。

フランシス神父様の叙階十周年記念に贈ったオリジナルの歌の練習中に、クリスマスでも『コンサートを歌ってみようか』と、金城ペギーさんの呼びかけで十月から少しずつ練習を始めました。ミサ後、すぐにお揃いのケープを羽織り、発声練習もできないまま、『まきびと』から歌いました。楽譜を持たず、顔をしっかりと上げて、一曲終わるごとに信徒の皆さんから温かい大きな拍手。子どもたちも二曲目から

2018年度全国典礼担当者会議報告④

テーマ: 信徒による典礼奉仕の共通理解を求めて 教区典礼委員 新田 選

研修は2日目の午後に、侍者についてと聖体授与の臨時的奉仕者についての説明が、最終日3日目の午前中に司祭不在のときの主日の集会祭儀の司会者についての説明が行われました。

まず、侍者の心構えとして、侍者は、ミサで信者が神に祈りを捧げるのを手伝い、神が私たちに会いに来られるのを手伝うものであること、従って侍者の奉仕は役職である前に霊的な体験の場であることが解説されました。侍者の祭服については基本的には白衣(アルバ)を着用すること、ミサの流れに沿って、扱う祭器の知識も身につけられるように養成すべきことなどが、具体的に解説されました。

聖体授与の臨時的奉仕者について。通常の奉仕者は司教、司祭、助祭であり、臨時的奉仕者は正式に選任された祭壇奉仕者と聖体授与のため正式に任命された臨時的奉仕者であることが解説されました。原則として、教区長が任命しますが、必要な場合、教区長は司祭に、聖体を授与する奉仕者を臨時に任命する権限を付与することができます。原則として、朗読奉仕者、神学生、修道者、教話担当者、信徒の順で選ばれます。

那覇教区では主任司祭が選任し、必要であれば、司教訪問の機会を利用して任命式を行うこと、任期は主任司祭が他所に移動するまでの間とすることなどが、先の司祭・助祭会議で確認されています。

臨時的奉仕者の服装については、アルバ、もしくはふさわしい服装とし、平服に、奉仕者であることを示すし(例:胸に十字架を下げる)の使用も可能であるとのことでした。ミサ中に座る場所、やっていけないこと、心構えについても言及があり、司祭会議で司祭たちにブイ神父から説明が行なわれました。

司祭不在のときの主日の集会祭儀の司会者については、試用版の案内を教区報にも掲載しましたので、ご確認された方も多いと思いますが、現状では那覇教区で主日の集会祭儀が行われるケースはしばらく無いと思われる。ただ、そうしたケースに備えて勉強していく必要があるという事を、司祭会議では確認いたしました。

以上、4回にわたって2018年度全国典礼担当者会議報告を掲載してきましたが、限られた紙面でもあり、説明不足もあろうかと思えます。不明な点は教区典礼委員会(委員長・ブイ神父)までお問合せください。



はしっかり声が出て、全八曲を歌いきることができました。イエス様へのいいお誕生日のお祝いができましたが、先にイエス様から、コンサート成功に導く大きな力となるクリスマスプレゼントを頂いたからこそ、成功できたと感じています。今回は、幼稚園生から青年まで十九名でのコンサートでしたが、これからも歌う機会を見て、教会学校の活動の一つとして、楽しみを増やしていきたいと思っています。夢は大きく、『世界コンサートツアー!』。そして、もう一つ。年末、小さき者へのプレゼントとして、イブのミサの日、ウエイン・パーント司教様より祝福された、お菓予・信徒の皆さんからの現金・商品券・お米券・食品等、軽貨

物車いっぱい、虹の森文庫こどもサポーターさんへ、馬小屋の前でお話ししながらお渡ししてできたことを報告致します。(鳥袋尚子) 十二月三〇日午前十時よりウエイン司教様司式のミサがありました。コザ教会は聖家族に捧げられており、この日は創立五十周年の記念日でもありました。当日のことばの典礼「ルカによる福音書」のなかに両親とともに十二歳になったイエス様がエルサレムに上った時のエピソードがありました。司教様の説教の中で印象に残ったのは「迷子になったのは実は親の方で私たちにイエス様を見失わないよう促されたのではないか。不思議な事にイエス様は十字架上で息を引き取られる時も両方に人がいてひとりではなかった」と話されたことです。説教のあと前からヨアキム神父様とともに準備してきた子どもたち九名の堅信式が行われました。拝領祈願のあと受堅者を代表してマリア岩元蒼波さんより「司教様、今日は私たちのために堅信の秘跡を授けて下さり、ありがとうございます」とお礼の言葉

計報
◆小椋教会
ヴェロニカ 城間 幸子 様
二〇一九年一月五日帰天 享年八十六歳
◆愛楽園教会
マリア 原国 寿美 様
二〇一九年一月十八日帰天 享年九十一歳
◆安里教会
ヨゼフ 下地 玄徳 様
二〇一九年一月二十日帰天 享年八十七歳

那覇教区平和委員会
日時: 2月24日(日) 午後2時~4時
場所: カトリック安里教会
講師: 北上田毅氏 元土木技術者(沖縄平和市民連合会)
演題: 沖縄から発信するメッセージ
「辺野古新基地は止められる」
カトリック那覇教区平和委員会 問い合わせ ☎090-1949-6569 (稲橋)

がありました。それから十一月と十二月の記念(誕生日、結婚記念日、洗礼記念日など)を迎えた人に司教様より特別な祝福がありました。ミサが終わって記念撮影したあ



と、エレミヤホールに移動し、余興(ウチナーグチコント)を楽しみながら一品持ち寄りの会食に舌鼓を打ちました。

堅信を受けた人(敬称省略)

ロレンゾ 知花 真斗

マリイ 知花 亜衣羅

イザベルナ 堤 柊子

マリア 岩元 蒼波

ロレンゾ 比嘉 聖也

ヨハネ 上江洲 乃希

マリア 知念 リカ

トマス 仲宗根 凛

マリア 仲宗根 優衣

(金城愛子通信員)

### コザ聖母幼稚園 創立五十周年

コザ聖母幼稚園は創立五十周年を迎え、十一月三日記念式典を開催いたしました。歴代園長や多くの関係者にご参列いただき、ウエイン司教様による感謝ミサ、記念遊具の祝別があり、式典や祝賀会が執り行われました。

これまでの神様のお導き、皆様のお祈りに感謝いたします。これからも大切な子どもたちを預かり育てる幼稚園とし発展していけますようご支援をお願いいたします。  
(園長・山田勢津子)

### お知らせ

#### 十ちむがなさ

カプチン・フランシスコ修道会士バルトロメオ・ミンソン神父様は、米国、ニューヨーク市のカルバリー病院において、1月18日の午後、帰天されました。(享年80歳)

バルト神父様は、1970年から2003年5月までの33年の長きにわたり那覇教区の為にお働きになりました。教区内の多くの小教区(宮古島平良・与那原・真栄原・普天間・泡瀬・石川)で宣教活動に従事し、特に見失った子羊を訪ね求める活動を通して群れを導く牧者として活躍し、沖縄を離れても心はいつも沖縄と共にあったようで、遺骨は沖縄のカプチン会の墓に収めてくれるようにと遺言されていたそうです。

どうぞ、バルト神父様の永遠の安息のために、お祈りください。

尚、教区葬は神父様の遺言を叶えるために遺骨をお迎えしてから執り行いたいと思いますので、日程等につきましてはあらためてご連絡いたします。ご了承ください。

ウェイン・フランシス・バート 司教

NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーションクララ



TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

- ・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)
- ・営業時間 8:30～17:30
- ・営業日 24時間365日(緊急対応含む)



葬祭の  
「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3  
TEL & FAX:098-885-8205  
<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>  
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

あらた たでお  
代表者・新田 選

24時間  
受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～  
そうてんしゃ

## 葬典社

- \*創業30数年・・・
- \*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
- \*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ  
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間  
受付

てんごく  
☎098-853-1059

